

自作 VTR の教育効果の検討

～精神看護学臨床実習に導入して～

野澤由美* 土屋八千代** 畠山義子*** 福永ひとみ**

Evaluation of the educational effect in regard to our own making VTR view
—Introduction into clinical practice within the Mental Health Nursing curriculum—

Yumi Nozawa Yachiyo Tsuchiya Yoshiko Hatakeyama Hitomi Fukunaga

(1998年10月30日受付)

ABSTRACT

This report is written about the effect of the use of VTR on the education of nursing students' clinical practice within the Mental Health Nursing curriculum.

At first, we planned the orientation of clinical practice in the hospital. However, because of the curriculum, it couldn't come into effect.

Instead of it, we made VTR in study for understanding the hospital and object of Mental Health Nursing. VTR was made by teachers (us) and staffs in the hospital. By some VTR, the students can understand an environment and structure of the hospital. By other VTR, the students can understand nursing care for the patients in the hospital. The students viewed the VTR before studying clinical practice.

We researched into each experience of the students, the image of the hospital and the patients, change of the image after VTR view, and understanding of the VTR. We also researched into the effect of VTR on the study of clinical practice.

The effects of VTR on introduction into clinical practice within the Mental Health Nursing curriculum.

- VTR view before the studying clinical practice instead of the visit to the hospital was effective.
- VTR could change the image of the hospital.
- The effects are different between the students having the experience to contact with the patient and the students who have no experience. Especially for the students who have experience in clinical practice at the hospital, VTR gives new discovery and chance to reconfirm. For students who have no experience to contact with patient, VTR gives the impression of the hospital and object.

*本学 短期大学部 精神看護学 **本学 看護学部 精神看護学

***本学 短期大学部 成人看護学

- ・ VTR view raised students' understanding, and it was connected to the translation into action.

Directions in future.

- ・ As the experience of the student had an influence on the degree of understanding, we study up discussing with students after VTR view, and taking a VTR of nursing care, and students visit to the hospital before studying clinical practice.

キーワード：精神看護学，臨床実習，教育効果，VTR 教材，実習導入

Mental Health Nursing, clinical practice, educational effect,

VTR in nursing study, introduction to clinical practice

I. はじめに

看護基礎教育においては、ほとんどの学生が精神看護の場や対象、つまり精神医療施設や精神障害者について未知の状況であることが多い。精神科実習においては、精神疾患患者というだけで受ける偏見・先入観があり、学生に不安を想起させる、と金山¹⁾らは報告している。精神看護学において、特に臨床実習を行うにあたっては、このような偏見から生じる恐怖や不安が過度である場合、学習の効果は半減するといえよう。しかし、学生は不安、恐怖を抱いている反面、興味・関心も大きく持っていること²⁾から、偏見を修正し、学生の興味・関心を引き出し、対象理解につなげる効果的な臨床実習を展開するためには、実習前にどれだけの情報を提供するかなど、相当の工夫が必要と考える。

本学は新設看護短期大学であり、精神看護学臨床実習をスタートさせるにあたり、導入として当該施設でのオリエンテーション、施設見学を行うことを計画していた。しかし、カリキュラムの進行上、その実施が不可能となったので、これに変わるものを検討した結果、視聴覚教材の使用を考えるに至った。阪本³⁾は、実践力の根底となることのできる知性は経験をもとにして築かれ、興味、関心は行動につながり、その

道具として、視聴覚教材は有効であると述べている。また、加藤⁴⁾は、とくに映像の効果には、感性的認識から理性的認識への橋渡しの役割を持つと述べている。知識と技術をつなぐのが臨床実習であり、2週間の実習の効果をあげるためには、学生が学内の講義や社会的な情報から持っている抽象的な理解を、具体的な理解として看護に展開させていくことが必要であり、その一つの方法として、映像文化で育った現代青年である看護学生にとって、VTRは臨床実習の導入として有効的であると考ええる。

視聴覚教材は近年看護教育に多く導入されており⁵⁻⁸⁾、このうち野中ら⁵⁾や金山⁶⁾らの報告は精神看護学臨床実習に適応したものである。しかし、実習施設の理解を目的として作成したものではなく、また、精神医療の場や疾患・症状に関わらず精神障害者全般の暮らす環境や生活、看護についてを短時間で理解できるものは見当たらない。

そこで精神看護学臨床実習施設で、VTRの作成を試み、それを実習前の学生に視聴させた。施設の構造等（環境編）、看護場面の一部（看護編）を撮影し、これを当該施設でのオリエンテーションや施設見学に替わるものとして、実習前オリエンテーションに導入した。

そこで実習施設の理解にVTRは有効であったかを評価し、教材としてのVTRの活用、実

習の導入に関して今後の方向性が見出せたので報告する。

II. 研究目的

自作 VTR が、精神看護学臨床実習施設と対象の理解に有効であったかについて評価し、視聴覚教材の活用と臨床実習導入の今後の方向性を明らかにする。

III. 精神看護学における教育計画

1. VTR の内容と作成過程

1) VTR 作成のねらいと目的目標、内容に関しては表 1 に示した。今回はその一部について実施、検討した。

2) 方法：撮影期間は H 8 年 10 月～11 月。精神看護学臨床実習施設である精神専門病院のスタッフや患者（家族）に協力を依頼して実施し

た。患者へは病棟の責任者から説明し、了解を得た。さらに、撮影は教員が施設側スタッフ立ち会いのもと実施した。撮影場所は、VTR 撮影のねらいと条件（看護者の受け入れと患者の承認）より、2 病棟とした。撮影後、教員が所要時間や見易さ、教育目的に合致した内容をスムーズに組み込むことなどを考慮して教材用に約 15～20 分に編集し、撮影に関与した病院スタッフや教育担当のスタッフ、各セクションの責任者などと試写を行い意見を交換し、施設側からの了承を得て教材とした。

2. 臨床実習までの学生のレディネス

1 年次から 2 年次まで精神看護学の講義・演習。2 年次に精神医学の講義。2 年次夏休みに精神看護学（精神保健）課題学習として精神医療・保健・福祉関連施設の見学。その後課題に関する発表、質疑応答により体験の共有化を行った。この体験学習において精神障害者と接する機会を得ている学生も多い。1 年次と 2 年

表 1：VTR 作成のねらいと目的目標および内容

1. ねらい 基礎看護教育の学生のほとんどは、精神看護学で初めて精神医療の現場にかかわりを持つ。精神看護学を学ぶ導入として、精神に障害のある人のありのままを知り、どのようなシステムのもとで援助を受けながら生活しているか等、日本の精神医療や看護の実態を理解させるためには、視聴覚教材の活用が有効である。しかし、現在の教材には教育目的に合致するものが少ない。そこで、精神看護学講座で自作 VTR の作成を計画した。	
2. 目的 精神医療や看護の場面を VTR に収録し、本学の授業や実習の導入として活用する。	
3. 目標 1) 患者の生活環境を知る 2) 患者の生活状況と看護場面を知る 3) レクリエーションや行事での患者の行動および作品を見る。 4) 作業療法やデイケア、共同住宅の実態を知る。	
4. 内容	
1) 環境編：精神看護学臨床実習施設（周囲の環境や建物の構造など人物は入れずに撮影する） ・地理的位置 ・周囲の景色や建物の外観 ・外来 ・作業療法、デイケア部門 ・食堂 ・開放病棟と閉鎖病棟の入り口の違い ・窓 ・病棟の構造（実習病棟） ・保護室	2) 看護編：実習病棟を中心に撮影する。 ①患者の入院生活 ・日課表 ・朝のミーティング ・ラジオ体操 ・スポーツ ・レクリエーション、散歩 ②生活援助場面 ・食事介助 ・包布交換 ・洗濯 ・入浴介助 ③代理行為 ・小遣い銭 ・衣類、おやつ ・テレフォンカード ・タバコ、ライター
3) 行事編：略	
4) リハビリテーション編：略	

次に基礎看護学の臨床実習にて精神科病棟に一部学生が配属。3年次より精神看護学臨床実習が開始。実習前のオリエンテーションにて、実習要項を中心に説明等行い、VTRを視聴させた。実習前に学生の実習目標の設定と実習病棟の希望を提出させ、それに基づき実習病棟を決定、実習開始となる。

IV. 研究方法

1. 調査対象

新設看護短期大学の3年生143名

2. 調査内容と時期

1) VTR視聴後（臨床実習開始前）：①当該施設での臨床実習及び精神障害者に接した経験の有無。

②精神病院及び精神障害者のイメージ（自由記載）とその変化の有無。③VTRのわかりやすさ（環境編、看護編）とその理由（自由記載）。
2) 臨床実習終了時：VTRの有効性の評価について。

以上の1) ②、③、2) はリッカート法を用いた。

3. 分析方法

1) 当該施設での事前経験の有無。VTR（環境編・看護編）のわかりやすさ。イメージの変化の有無。臨床実習終了後のVTRの有効性の評価の単純集計。

2) VTR視聴前後の精神病院及び精神障害者へのイメージ、VTRに対する疑問・意見については、記述からキーワードを抽出し、類似項目でカテゴリー化。

3) ①当該施設での経験の有無別に、VTRのわかりやすさ、精神病院及び精神障害者のイメージの変化の有無の比較検討。②VTRのわかりやすさとイメージの変化の有無との関連。

V. 結果

VTR視聴後のアンケートの分析対象者は125

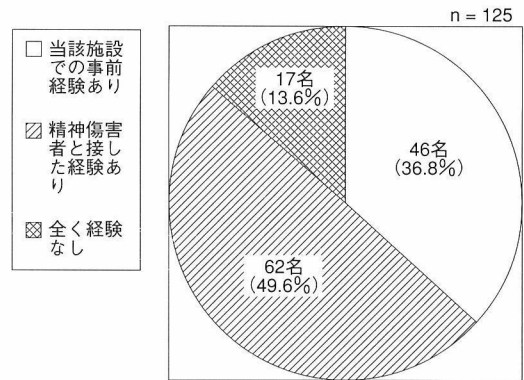


図1 事前経験の有無

名（回収率87.4%）。臨床実習終了後は105名（回収率73.4%）であった。

1. VTR視聴後（臨床実習前）

1) 事前経験の有無：図1に示すように、当該施設での事前経験を有する者（以下実習経験のある者とする）は46名（36.8%）であった。実習経験のない者は79名であり、そのうち、2年次の施設見学など何らかの機会に精神障害者と接した経験を持つ者は62名（49.6%）であり、全く接した経験のない者が17名（13.6%）であった。

2) 精神病院及び精神障害者に対するイメージとその変化：表2に示したように、VTR視聴前は「純粹、まじめ」が26名で最も多く、「怖い」25名、「思っていたより普通の人と変わらない」13名、「普段は普通の人と変わらないが、症状のある時はそうでない」11名、「暗い」6名「明るい」6名「不可解」6名、「接し方がわからない」5名等であった。視聴後にイメー

表2：VTR視聴前の精神病院

及び精神障害者に対するイメージ

n = 125

イメージの項目	人数
純粹、まじめ	26
怖い	25
思っていたより普通の人	13
不可解	12
症状のある時は自分達と違う	11
暗い	6
明るい	6
接し方がわからない	5

（複数回答）

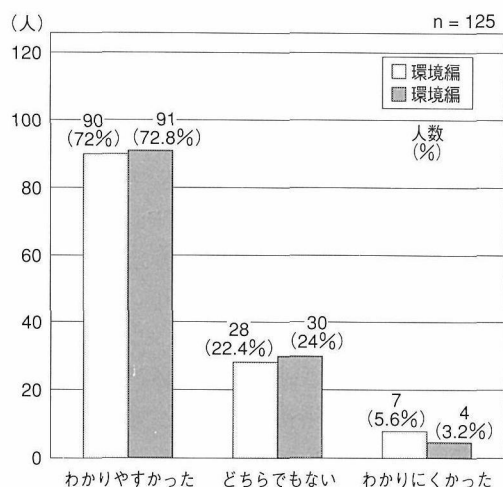


図2 VTRのわかりやすさ

ジが変化した者は25名（20％）であり、変化しなかった者は54名（43.2％）であった。その内容は「明るくなった」が最も多く、次いで「きれい、清潔感がある」、「病院ではないという感じ」などであった。変化しない理由は「実習経験があり、既にイメージを持っているから」が最も多く、「実際に患者にあっていないので何ともいえない」が少数であった。

3) VTRのわかりやすさ：図2に示したように、環境編については、わかりやすかった者が90名（72％）、わかりにくかった者が7名（5.6％）であった。これらの理由についての記載は、感想やイメージ的内容になっており、

「以前の実習での再確認ができた」が14名で最も多く、「環境が良く、自然が多い」が12名、「全体をつくり、外観」11名、「イメージがついた」7名、「以前の実習で見られなかった場所も見ることができた」5名であった。

看護編については、わかりやすかった者が91名（72.8％）わかりにくかった者が4名（3.2％）であった。これらの理由についてはVTRを視聴してわかったことという内容で記載されていた。「患者の生活」9名が最も多く「以前の実習での経験を再確認できた」8名、「以前の実習以外の患者の様子」7名「患者の生活のイメージ」7名、「実際の患者の様子」4名であった。

2. 臨床実習後のVTRの有効性の評価

図3に示すように、VTRは臨床実習を行う上で有効であるとした者は35名（33.3％）、有効でないとした者が14名（13.3％）であった。

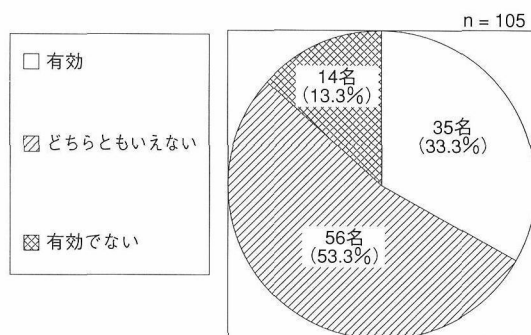


図3 実習終了後のVTRの有効性の評価

表3：事前経験の有無別のVTRのわかりやすさとイメージの変化の比較

人数（％）

実習経験		VTRのわかりやすさ				イメージの変化	
		環境編		看護編		あり	なし
		わかりやすかった	わかりにくかった	わかりやすかった	わかりにくかった		
あり		41 (89.1)	0 (0)	40 (86.9)	2 (4.3)	1 (2.1)	32 (69.6)
なし	精神障害者との接触の機会を持つ者	39 (61.9)	5 (7.9)	39 (61.9)	1 (1.6)	20 (31.7)	18 (28.6)
	事前経験まったくない者	11 (68.7)	1 (6.2)	13 (81.2)	1 (6.2)	4 (25)	4 (25)

どちらともいえないを除く

3. 比較検討

1) 事前経験の有無別に見る VTR のわかりやすさ、イメージの変化：表3に示すように実習経験のある者は、環境編では41名 (89.1%)、看護編では40名 (86.9%) が VTR がわかりやすかったと回答していた。実習経験がない者のうち、精神障害者と接した経験のある者は、環境編、看護編とも39名 (61.9%) がわかりやすかったと回答していた。接した経験を全く持たない者は、環境編では11名 (68.7%)、看護編では13名 (81.2%) がわかりやすかったと回答していた。

次にイメージの変化では表3に示すように、変化した者は実習経験のある者は1名 (2.1%)、精神障害者と接した経験を持つ者は20名 (31.7%)、接した経験を全く持たない者は4名 (25%) であった。

2) 事前経験別 VTR のわかりやすさとイメージの変化との関連：実習経験を有する者は、VTR がわかりやすかったか否かに関わらずイメージが変化した者は1名のみであった。実習経験を有しない者は、VTR がわかりやすかったと回答したの方がイメージが変化した割合が高かった。

4. VTR に対する意見としては、全体を把握できるものがよい、説明でわかった或いは説明が不十分であった、画面が揺れたり暗くて見づらいなどであった。

VI. 考察

1. VTR 教材の教育効果

今回の調査の結果、精神病院や精神障害者に対する学生の見方は VTR 視聴によって変化し、その変化は事前の経験に左右されることがわかった。

精神看護学の講義は、対象を肯定的人間観で捉えることを基盤とし、臨床実習はセルフケア理論で展開している。また、精神看護の場や対象の理解を深めるために、精神保健医療福祉関

連施設の見学を実施している⁹⁾。これらの学びを統合させるのが臨床実習であるが、2週間という短い期間の実習効果を高めるためには、実習導入が重要となる。今回は代替案としての VTR 視聴を行ったが、学生のもつイメージが肯定的な方向へと変化したことにより、一応の効果はあったと評価できる。内容分析から見ると施設の理解に関するものであり、対象の理解を深めるには至っていないが、これは患者の倫理を考慮して、看護場面の撮影が十分ではなかったこと、及び当初のねらいが実習場所の理解を第一としたためと考えられる。

イメージが変化した者は、実習経験のない者が多かったが、経験のある者は、直接患者との接触があり、患者のイメージは固定化されていたことから、イメージは変化しなかったことが推測される。しかし、VTR を視聴して以前の経験を再確認したり、知り得なかったことなどを新たに発見している等の記述があったことから、彼らにも VTR の効果はあったといえる。

次に今回の結果では、VTR がわかりやすかった者に、イメージが変化した者が多かった。これは、視聴覚メディアには、認知を促進したり、理解をし易くするなどの特性があり¹⁰⁾、さらに、「映像の中にはその構成や表現方法によって、行動への意欲をかきたて、積極的態をとらせることもできる」¹¹⁾といわれていることから、VTR の視聴は、学生の理解度を高め、更なる行動化へとつながることが示唆された。

今回、対象と接した経験がない者に、VTR がわかりやすかったと回答している者が多かった。これは経験がない故に何らかの情報を収集しようとする意欲が経験を持つ者に比して高かったこと、或いは初めて目にする場面の印象の強さが推測される。このことから VTR は、全く対象との接触がない者に対しては、場と対象を印象づけるには有効的であることが示唆された。

2. 今後の方向性

以上 VTR の教育的効果が明らかになったが、

精神看護学臨床実習の導入に VTR を活用するためには、以下の課題の検討が必要である。

1) 阪本は「本当に実践力の根底となることのできる知性は、経験をもとにして築かれるのである」¹²⁾と述べているように、学生の経験と知識が統合され、行動につながっていく。それを阻害するものには偏見があり、それが修正されることで、学生の学習行動へ結びついていく。肯定的イメージをもつことは、興味・関心につながるものとする。今回の VTR 視聴で、場は肯定的なイメージと転化させることはできたが、対象の理解には至らなかった。学生が対象に興味・関心を持ち、それを臨床実習の学びにつなげていくためには、対象理解が必要であるが、臨床実習の展開のための情報を、何をどこまで提供するか（看護場面）の検討が必要となる。阪本が視聴覚教材は「ただ見せたからいいというのではなくそのものについて考え、理解し、概念化された考えを持つということである。」¹³⁾と述べているように、VTR 視聴後に学生間で学びや各々の経験を共有でき、理解を深めていけるようにディスカッションの機会を持つことが必要であるとする。

2) 臨床実習の効果的な導入は、学生の興味・関心を引き出し、臨床実習に向けて主体的に行動させることにありと考える。偏見から生じる恐怖や緊張は主体的行動を妨げる。その修正には、学生がじかに見聞することが有効であると考える。また、精神科実習の導入として病棟見学を行い、その前後の精神障害者に対するイメージや考え方の調査から、それらは、否定的から肯定的見方へと変化することが報告されている¹⁴⁾。これにより、実習前の施設見学や、患者との直接の接触は、実習の導入としては不可欠であり、今回の VTR で一応の効果はあったものの、今後は、施設でのオリエンテーションの実施にむけて企画を進めていく。

3) 今回の VTR 作成は、教員の撮影であり、素人の俄仕込みであった為わかりづらい部分があった。加藤¹⁵⁾の提言する VTR 教材づくりの

方法を参照したり、学生の評価及び、患者の倫理を配慮した内容・構成の検討を含め、当初の企画実現に向けて努力していきたい。

VII. 結論

1. 実習前の VTR 視聴は施設見学の代替として有効であった。

2. VTR の理解度には事前経験が影響していたことから、視聴後のディスカッションを含め、看護場面の撮影や、実習施設の見学などを検討していく。

VIII. おわりに

今回は開学当初であり、すべてが試行錯誤の段階であった。実習施設の見学の代替案としての VTR 教材は、一応の効果はあったが、制作の過程、導入の方法、結果の評価において不十分であった。しかし、制限されたカリキュラムの中で関わりの効果をあげるには、理想だけでなく、それに近づくための独創性や柔軟性が必要であることがわかったので、一つ一つの課題にこのような姿勢でとりくんでいきたい。

〈引用文献〉

- 1) 金山正子他：精神科実習の基礎教育方法に関する研究(1)―質問紙・CAS 不安診断検査からの不安状態の検討―，第20回日本看護学会集録（看護教育），211～214，1989
- 2) 土屋八千代：精神障害者に対する看護学生の意識の変化―精神科実習前後の比較―，聖母女子短期大学紀要第6号，49～60，1993
- 3) 阪本越郎著有光成徳増補：視聴覚教育入門15，38 内田老鶴園新社，1986
- 4) 加藤万利子：看護教育におけるビデオ教材の有効性，看護教育33-6，414，1992
- 5) 野中絹代他：精神科実習に対する看護学生の不安度の変化―VTR 視聴前後および実習期間中の変動パターンとその影響要因に関する検討―，21～31，日本看護学教育学会誌，1997
- 6) 金山正子他：精神科実習の基礎教育方法に関する

- 研究(2)―視聴覚教材を導入した教育方法の効果の検討―, 第21回日本看護学会集録(看護教育), 57～60, 1990
- 7) 横田峰子他: 看護教育における VTR 教材の活用とその効果について―看護の対象理解―, 滋賀県立短期大学学術雑誌第48号, 123～127, 1995
- 8) 豊島由樹子: VTR 学習の効果と特性不安の関連―看護学生の実習前不安の軽減に対して―, 聖隷クリストファー看護大学紀要No2, 55～61, 1994
- 9) 土屋八千代他: 精神保健関連施設での学生主体の体験学の評価と課題, 第28回日本看護学会集録(看護教育), 54～57, 1997
- 10) 西本洋一: 多媒体学習論―教育工学への人間的アプローチ, 第一法規出版, 1975
- 11) 前掲3) 38
- 12) 前掲3) 41
- 13) 前掲3) 40
- 14) 土屋八千代: 精神科実習における教育的関わり―学生の意識の変化及び病棟自己選択の評価―, 聖母女子短期大学紀要第7号, 34～40, 1994
- 15) 加藤万利子: 看護教員が作るビデオ教材―学内でできる教材作り―, 看護教育33-6, 1992